中国地区道路利用者会議会長

檜山俊宏

広島県議会議員

令和8年の年頭にあたり、当会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

当会議の運営及び諸活動につきましては、日ごろから格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨今の道路整備を取り巻く状況においては、令和7年4月に道路法が改正され、実効性のある道路啓開など災害対応の深化が図られるとともに、道路管理者が協働して脱炭素化に取り組む枠組が導入されております。さらに、道路が持続的な成長、安全・安心で豊かな国民生活、地方創生に重要な役割を果たしていることを踏まえ、「効率的・効果的な整備」、「防災機能の確保」、「脱炭素化の推進」等を定めた基本理念が創設され、改めて、道路が果たすべき役割の多様化やその重要性を再認識したところでございます。

道路は、平時においても、国民生活の向上、経済社会の発展に不可欠な最も基礎的な社会基盤であります。中国地方において、その整備は未だ不十分であり、「地方創生」の取組を進めていくためには、高規格道路ネットワークから生活道路に至るまで、真に必要とされる道路の整備を緊急かつ計画的に進めていく必要があります。

加えて、令和7年6月に「第1次国土強靱化実施中期計画」が策定され、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化が求められております。

このため、ダブルネットワーク化や多車線化などの機能強化に加え、重要物流道路の整備促進、地域の実情を踏まえた渋滞対策、港湾・空港のアクセス道路の改善、スマートICや中継輸送拠点の整備による輸送の効率化、ETC2・0を活用した割引制度の拡充による高速道路の効率的な活用など、利用者視点による道路施策をハード・ソフト両面から強力に推進していくことが急務であると考えております。

引き続き、当会議といたしましては、資材価格の高騰や賃金水準の上昇に対する中でも、遅れている地方の道路整備等の実情を踏まえ、道路関係予算の総額の確保・拡充に全力で取り組んで参りますので、皆様には一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

四国地区道路利用者会議会長

森本敬一

㈳高知県トラック協会会長

令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当会議の運営および諸活動につきまして、格別のご支援・ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、四国地区では、四国8の字ネットワークの一部である高知東部自動車道の「高知龍馬空港IC～香南のいちIC」間及び阿南安芸自動車道「北川道路2‐2工区」の一部区間が開通しました。

これらの道路の開通により、速達性やアクセス性の向上、周辺道路の渋滞緩和など、既に多くの整備効果を実感しており、道路整備に尽力いただいた関係者の皆様には重ねて感謝申し上げます。

また、今年度中には、徳島南部自動車道の「阿南IC～小松島南IC」間、来年度には、今治小松自動車道の「今治朝倉IC～今治湯ノ浦IC」間の開通が予定されており、これら高規格道路ネットワークの整備により、さらなる利便性・安全性の向上、物流の効率化や交通混雑の緩和が実現し、観光や地域産業の振興などによる地域の活性化が期待されております。

一方、近年、全国的に大雨や地震などが頻発しており、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が「60～90％程度以上」となるなど、さらに切迫度が高まっております。

特に太平洋に面する高知県では、想定される最大津波の高さが34mに達するなど、甚大な被害が予想されております。

大規模災害発生時に救助活動や支援物資の輸送を支える道路は、正に「命の道」であり、依然としてミッシングリンクが残る四国8の字ネットワークは、より一層、整備を加速させる必要があります。

また、昨年は四国内の高速道路の暫定2車線区間において死亡事故が多発しており、早期4車線化などによる安全性の向上も喫緊の課題となっております。

当協議会としましても、安全で安心できる豊かな暮らしに不可欠な道路整備の実現に向け、四国8の字ネットワークのミッシングリンク解消や暫定2車線区間の4車線化はもとより、地域の皆様の生活や経済活動を支える国道、県道等の改良や耐震強化、防災対策、老朽化対策などの必要性を引き続き訴えてまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますことを、心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とします。

九州地区道路利用者会議会長

関　好孝

福岡県大牟田市長

令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素より当会議の運営及び諸活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

令和7年を振り返りますと、1月に発生した埼玉県八潮市の道路陥没事故は、公共土木施設の老朽化問題の深刻さ、そして国民生活に及ぼす影響の大きさをあらためて認識させられる出来事でした。現地では、今も関係者の皆様が下水管渠等の早期復旧に向け懸命な努力を続けておられることに対し、心より敬意を表したいと思います。九州地区においても8月の大雨により多数の人的被害とともに甚大な物的被害が発生しました。

ここに、あらためまして全国で亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

また、世界の各地において異常気象に伴う様々な自然災害が頻発・常態化しており、事前防災・減災対策が、出産施設への速やかなアクセスを実現する観点から「命の道」と呼ばれるのも、決して大げさだとは思えません。道路整備の必要性を判断するに当たっては、道路が車や人により使われる「量」を物差しとすることもさりながら、道路があることが地域にもたらす「効用」に着目することも大変重要なことだと思います。だれもが安心してこどもを生み育てられることが当たり前である社会であり続けるためにも、高規格道路ネットワークの整備やミッシングリンクの解消、車線数の増加などは急務と考えますが、皆さんはどう思われますか？

↙代替性の確保などを強力に推進する必要がありますが、併せて、道路事業推進の裏付けとなる、昨今の資材価格や人件費高騰の影響も踏まえた、必要かつ十分な道路予算の確保が非常に重要となります。

道路整備を取り巻く環境は、大変厳しい状況にはあるものの、当会議といたしましては、遅れている地方の道路整備の実情を踏まえ、国の動向も注視しつつ、会員の皆様と連携して、長期的かつ安定的な道路予算の確保に向け、全力で取り組んでまいりますのは、今や世界共通の課題となっています。

さらに、昨年再選したトランプ米大統領の打ち出した関税措置や日中関係の悪化、そして長引く物価高、人手不足など懸念材料は尽きることがありません。

一方、九州地区においては、台湾のTSMCの熊本進出を契機に、急速に半導体関連産業の集積が進んでおり、専門的人材の育成や必要なインフラの整備など、その受け皿づくりも含め「新生シリコンアイランド九州」の実現などに向けた新たな九州の飛躍のための動きが活発化しているところです。道路整備の面からも、この極めて大きな機会を逃さないように、まずは、九州の自律的かつ一体的な発展を図るため、新広域道路ネットワークとしての「九州リングネットワーク」の早期実現に向けて、引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後となりましたが、本年が皆様にとって、より一層の飛躍の年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

提言

2026年は丙午

今年の干支は丙午（ひのえうま）に当たるそうです。

干支は、10年で一巡する十干（じっかん）と、12年で一巡する十二支の組み合わせのため、特定のペアが再び揃うのに60年を要し、丙午になるのも60年ぶりとのことです。

丙午には「その年に生まれた女性は気性が激しく、夫を不幸にする」という迷信があり、それが影響してか、前回丙午であった1966年は出生数が前年の約3／4になるなど、丙午になると出生数が極端に減少する傾向がみられました。

ところが、近年の出生数は、その丙午をものともしない低水準で推移しているようです。例えば、2024年の出生数は約68万人となっており、前回丙午であった1966年（出生数約136万人）のさらに1／2程度にまで低下しています。

いわゆる「少子化」です。その原因・背景には様々なものがあると思われますが、一つは「出産施設の減少」が、道路に関わりのあるものとして挙げられると思います。

（公社）日本産婦人科医会が2024年に実施した調査によれば、分娩施設は約20年前と比べて1000件強、割合にして1／3強も減少しているとのことです。また、昨年ある都道府県の方が、分娩可能な市町村の数が管内市町村の15％程度しかない、とお話しされるのを耳にしました。驚くべきことに、出産施設が1つもない地方公共団体が増えているそうです。

出産には、突発的で予測できない出来事が伴うものです。身近に出産可能な施設がないと、緊急時には母子の健康に関わりますし、それ以前に、すぐ頼れるもののない不安や心細さから、出産自体を躊躇うといった行動選択も実際起きているのではないでしょうか。そう考えると、出産施設の減少は、物心両面から少子化にかなり深刻な影響を及ぼしているものと思われます。

こうした状況において、地域間の高速交通を支える道路ネットワークの整備や、ミッシングリンクの解消、車線数の増加などは急務と考えますが、皆さんはどう思われますか？

高速道路の通行止め・規制情報

【工事規制】

◇**第二神明道路** 須磨料金所～**阪神高速３号神戸線** 湊川JCT
　1月5日（月）～5月中旬　各日21:00～翌6:00

【工事通行止め】

◇**東名阪自動車道**　蟹江IC ～弥富IC（下り線）
　1月19日(月)、26日(月)、2月12日(木)、20(金)　各日23:00～翌5:00

年末年始期間における高速道路の交通状況（速報）

全国の高速道路の主な区間（代表40区間）

		令和7年度実績①		令和6年度実績②		対比①／②	
平均日交通量（全車）		37,300台／日		36,600台／日		102%	
（小型車）	（大型車）	32,200	5,100	32,000	4,600	101%	111%
最大日交通量		41,300台／日		42,700台／日		97%	

渋滞回数（10km以上の渋滞回数は、30km以上の渋滞回数を含む）

	令和7年度実績①	令和6年度実績②	対比①／②
10km以上の渋滞	220回	221回	100%
うち30km以上の渋滞	12回	10回	120%